

自分のことは自分で！の気持ちを育てる

登園時や降園時に自分のリュックサックなどの持ち物を保護者の方が持っているのを見かけることがあります。子どもたちは園で、夏の生活の仕方や、プールあそびの準備での着替えなどを繰り返ししてきたことで、自分でできることが増えてきています。できることが増えると自信もつき、余裕も出てくるため、いろいろなところに目が向き、刺激も受け入れることで、より意欲的に活動できると思います。

自分のものを意識することで物を大切にすることも育まれ、持ち物の管理や整理も身につくようになります。お子さんに合った声かけや支援をしていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

自分で自分の荷物を持ち、「おはよう」「さようなら」の挨拶もいろいろな人と交わせることも大切にしたいところです。



心豊かになるときを…



みみょう文庫の日、保護者の方とお子さんが絵本を選ぶ様子を見ていた保育者が「親子で絵本を選ぶときのお母さんや子どもたちを見るのも楽しいんですよ」と教えてくれました。

たくさんの絵本の中から子どもたちが選んだもの、前回と同じ絵本なの？と思われることもあるかと思いますが、それは、子どもたちが大好きな絵本、繰り返し読みたい絵本だということです。

涼しくなり、過ごしやすくなるこの時期、おひざに抱っこし、一冊の絵本を親子で読む時間を短い時間でも楽しんでいただけたらと思います。

目には見えないやる気を育てるには

朝夕には、少し涼しさを感じるようにもなりましたが、日中はまだまだ暑さも厳しく、体調を崩す子どもが増えてきました。元気に鳴いていた蝉の声も遠のき、事務所の横では競うように鈴虫たちが鳴き始めています。空を見上げると、入道雲からすじ雲へと変わり、季節の移り変わりを肌で感じているところです。

さてこの夏は、子どもたちが身体全体を使って、夏のあそびをじっくりゆっくり遊べるよう、そして、子どもたちの「やりたいこと」が実現できるようにいろいろ工夫しました。

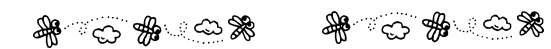
0歳児では沐浴やシャワーの中で、流れ出る水にふれたり、感触をしっかりと楽しんでもらいました。「きもちいいね」と声をかけると、保育者の顔を見つめて「きもちいいよ」と答えてくれるようでした。

1歳児では、ビニール袋に水と紙を入れると、徐々に水がピンク色や黄色に変わることに目を輝かせ、ビニール袋に入った色水を光にあてたり、嬉しそうに持ち歩いたりしていました。

給食室からもらったぶどうの皮で色水づくりをしたときは、「給食で食べたぶどうの色の水ができた」と不思議がる様子に、保育者も一緒になってワクワクする世界を楽しみました。

2歳児では屋上へ行き、水鉄砲の水が出る仕組みがわかり、面白がったり、狙ったところに水をかけて遊んだり、幼児が入る大きなプールに入って、パシャパシャと音をたてて歩いたり、這いはいでワニ泳ぎをしながら、「みてみて」と得意そうに披露する子に、保育者は「すごいね」、「かっこいいね」と声をかけてあげていました。

3・4・5歳児は、毎週金曜日は3つのグループに分かれ、午前中は異年齢で一緒になって遊



んだり給食を食べたりしながら過ごし、午後はあそびを振りかえったりお話を楽しんだ後、「またあそぼうね」とそれぞれの部屋に帰っていくのですが、異年齢の子と一緒にいると、小さい子は大きいクラスの子への憧れの気持ちを持ち、「あんなことしてみたいな、できるかな、やってみよう」という意欲が育ちます。また、大きい子は小さいクラスの子に対し思いやりの気持ちを持って、何を手伝ってあげるといいのかな、など相手のことを考えながら行動する力や調整する力が育まれます。

現在小学校に上がるまでに身につけて欲しい力として、「幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿」というのがあります。「健康な心と身体」「言葉による伝え合い」とか、「数量・図形、文字等への関心・感覚」、「自立心」、「協同性」、「思考力の芽生え」、「豊かな感性」、「道徳性・規範意識の芽生え」など、大半が目に見えない力です。

これらの「やる気」につながる「見えない力」を伸ばすには、本を読んだり話を聞くことで学習できない乳幼児期では、毎日の生活の中で、快さを感じたり、気づいたり、考えたり、さわったりすることや、自分で考えて行動する体験ですが、一番大切なことは、やったことを傍にいる大人が認めてあげ、声や動きで応えてあげることです。

水あそびの中にも、快よさだけでなく水の動きや日光による色の変化があり、子どもたちには驚きや感動があります。その瞬間をとらえ声にして共感してあげることで、子どもたちは自分の存在に自信を持ち、いろいろなことに挑戦しようとする気持ちを持つようになります。これからも、子どもたちが不思議さや、変化を見つけ、ワクワク出来るような環境を用意していきたいと思っています。

園長 柳楽 薫

敬老の日

敬老の日は昭和 41 年から国民の祝日（9月 15 日）に加えられた祝日です。現在では、9月の第三月曜日に設定されています。

「多年にわたって社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」だけではなく、すべての国民が高齢福祉について、関心と理解を深める日であると言えます。

園では、ケアポート広島への訪問だけでなく、段原地区のお年寄りとのふれあい会を予定しています。命のつながり…おじいちゃん、おばあちゃんが出て、お父さん、お母さんが生まれてきたこと、そして自分たちがいることを伝えていきたいと思っております。

お年寄りを尊敬し、大切に
する気持ちが育ってほしいと
願っています。



ケアポート広島訪問

9月 13 日（木）

年長さんが、老人ホームケアポートを訪問して、歌やダンスを披露します。毎年 2 回（12 月にも訪問します）子どもたちがくるのを楽しみにしてくださっています。子どもたちの笑顔と元気をお届けし、お年寄りからたくさんの優しさやあたたかさをいただければと思います。

